

超高速光マルチメディア配信システムの研究開発（沖電気工業株式会社）平成16年度採択評価結果

整理 番号	評価点		総合所見
16 - 08	技術 評価	38	<p>提案グループの研究能力は非常に高く、160Gbit/s 超のビットレートにおいては間違いなく世界のトップレベルであると思われる。現在のところこのような超高速技術を展開する応用領域があまり無い中で、OTDM 技術と OCDM 技術を組み合わせて配信システムなどの加入者へ向けた応用を模索する点では非常に面白い。最終的な光配信システムのみで評価すると、WDM-PON 等の他のシステムと比較することになり、簡単ではなくなる。しかし、本研究の過程で得られる要素技術は次世代（あるいは次々世代）の基盤性を有しており、リスクの高い研究開発をサポートするという当該制度の方針と合致しているようにも見える。特に、提案グループの研究能力は世界トップ級であり、研究の実施継続により、戦略技術創成、有効な知財的成果を含め期待度が高い。</p> <p>事業化については、実用化研究、販売開始に至るまでのスケジュールも明確であり、開発、販売、製造についてはグループ企業を含めた最適なリソース配分が検討されている。他社に先駆けシステムを実用化することで、アーリーアダプタを確実に確保し、広帯域需要を喚起しながら高シェアの維持を図るものであり、妥当と認められる。また、実用化に至るまでに必要な研究開発費、サンプルプロモーション費の試算も行われており、資金計画も妥当である。なお、今後圧倒的な技術優位性をいかに早期に確保できるのかに依存している。また、超高速ネットワークを必要とするユーザー需要が重要であり、通信キャリアにその需要に備えてPONシステムへの投資意欲を喚起することがビジネスを成功させる条件になる。</p>
事業 化 評価	36	74	